

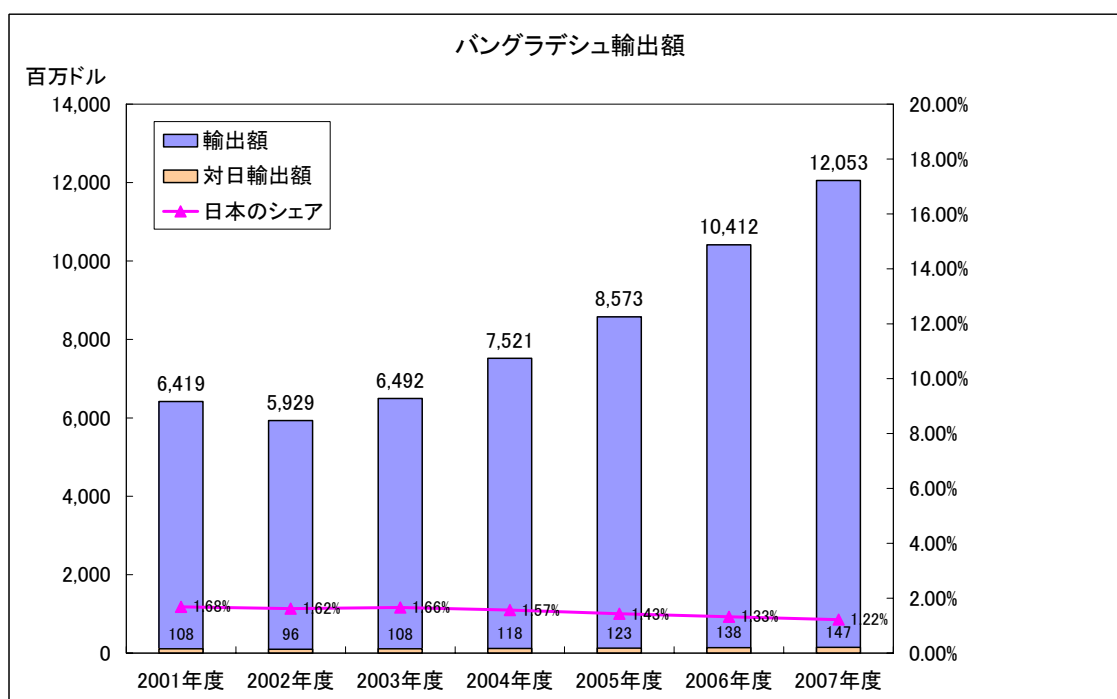
2008 年 2 月

日本・バングラデシュ間における貿易・投資の現状について

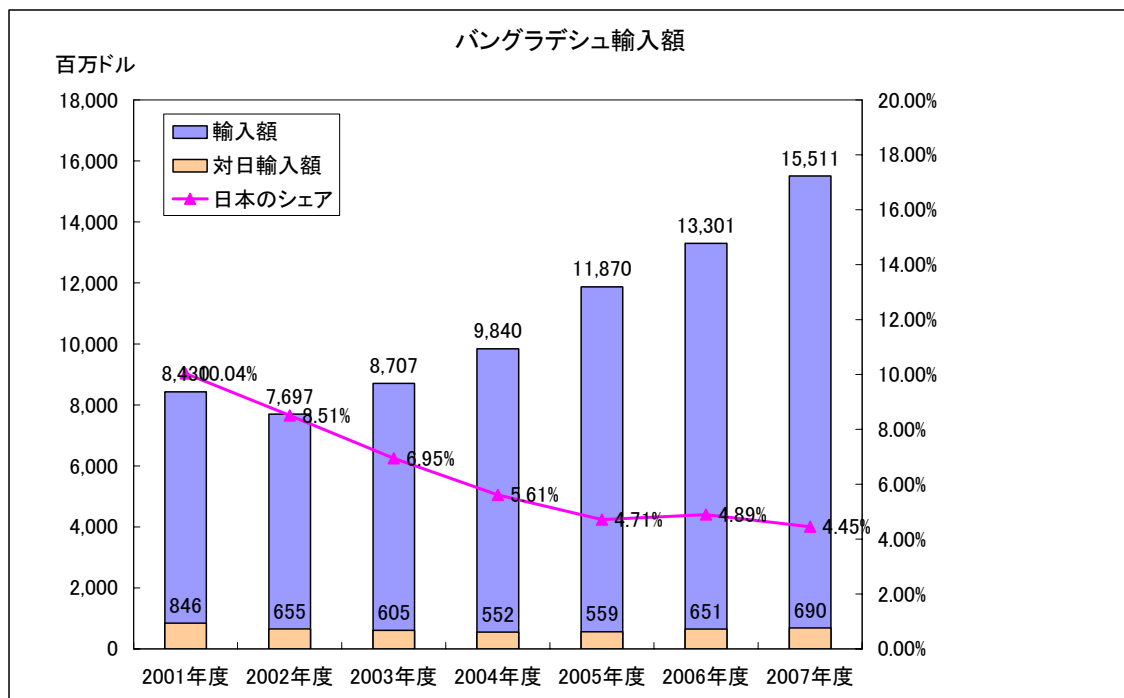
在バングラデシュ日本国大使館
経済・経済協力班

1. 貿易

2007 年度（2006 年 7 月～2007 年 6 月）の対日貿易は、輸出が 1.47 億ドル、輸入が 6.90 億ドルとなっている。バングラデシュにとって、我が国は輸出が第 13 位、輸入が第 5 位の貿易相手国であり、重要な貿易相手国の一つとなっている。また、バングラデシュの対日貿易は恒常的に輸入超過となっており、2007 年度は 5.43 億ドルの輸入超過となっている。なお、日本への主要輸出品目は革製品、エビ、縫製品、カメラ部品等であり、日本からの主要輸入品目は輸出用機器、船舶、鉄鋼、電気機器となっている。



(備考) Bangladesh Bank 「Bangladesh Bank Annual Report 2006-2007」により作成



(備考) Bangladesh Bank 「Bangladesh Bank Annual Report 2006-2007」に基づき作成

輸出相手国(上位10カ国(2007年度))

	2007年	2006年	前年比(%)
1 米国	3,441	3,030	13.56
2 ドイツ	1,955	1,764	10.84
3 英国	1,174	1,049	11.95
4 フランス	732	678	8.01
5 スペイン	528	406	30.15
6 イタリア	516	426	21.12
7 オランダ	459	327	40.20
8 カナダ	457	421	8.48
9 ベルギー	436	359	21.33
10 インド	289	242	19.50
13 日本	147	138	7.03
その他	1,919	1,572	
総額	12,053	10,412	

輸入相手国(上位7カ国(2007年度))

	2007年	2006年	前年比(%)
1 中国	2,539	2,050	23.85
2 インド	2,227	1,851	20.31
3 シンガポール	1,032	848	21.70
4 香港	746	625	19.36
5 日本	690	651	5.99
6 韓国	504	472	6.78
7 台湾	473	469	0.85
その他	7,300	6,335	
総額	15,511	13,301	

(備考) JETRO 提供資料 (輸出: バングラデシュ銀行、輸入: 輸出振興庁) に基づき作成

2. 投資

2007年度の日本のバングラデシュへの直接投資は7.60百万ドルに上り国別では12位となり、近年日本からの投資が減少傾向にあったなかで久々に増加に転じた(2004年度: 3.8百万ドル、2005年度: 2.94百万ドル、2006年度: 1.64百万ドル)。

主要投資国(06/07年度)

		百万ドル		
		2007年	2006年	前年比(%)
1	UAE	1,091.82	1,127.10	-3.13
2	韓国	49.68	10.17	388.50
3	シンガポール	45.49	6.91	558.32
4	英領ヴァージン諸島	30.28	0.00	-
5	英国	28.50	33.87	-15.85
6	香港	28.35	11.44	147.81
7	インド	27.96	13.77	103.05
8	オランダ	20.55	7.99	157.20
9	台湾	14.13	0.56	2423.21
10	米国	9.55	40.53	-76.44
11	中国	9.09	10.42	-12.76
12	日本	7.60	1.64	363.41
	その他	35.23	1,870.40	
	総額	1,398.23	3,134.80	-55.40

(備考) JETRO 提供資料(投資庁)に基づき作成。

ダッカ日本商工会議所が 2003 年および 2005 年にまとめた「バングラデシュのビジネス改善のための提言書」によると、法律・政策面、手続き・制度面、インフラ面、といった面においてバングラデシュへの投資に関する阻害要因が存在しているとされている。まず法律・政策面では、国家としての政策の一貫性の欠如や既存の外国企業に対する心遣いの欠如、産業育成に関する明確な政策の欠如などが挙げられている。また、手続き・制度面では、賄賂や事務処理の遅さ、通関時の諸問題などが挙げられている。さらにインフラ面においては、不安定な電力や通信、道路や港湾の整備不足などが指摘されている。

また、JETRO が行っている「アジア主要都市・地域の投資関連コスト比較調査」によると、バングラデシュは他国と比べ、賃金、オフィス賃貸料、ガス・水道等の公共料金において優位があるが、反面で、政府認可に要する時間や政権交代に伴う政策一貫性の欠如、不十分なインフラ等については早急なる改善が求められている。

このように、バングラデシュは人件費だけを取ると安価であるような印象がある反面、上述のような『見えざるコスト』を考慮に入れるとあまり安価ではないというのが実態である。このような問題を解決していくことが政府には求められているが、現実的にはなかなか改善が進まず、新規に日本からの投資を呼び込む上での弊害となっている。

以上